

ビジネスジェット・プライベートジェットの世界
～ジェネラル・エビエーションの開拓者としての軌跡・
展望とラグジュアリーな空の仕事・職場を知る～



株式会社ユニバーサル・アビエーション 代表取締役
東山 浩司

日本マネジメント総合研究所合同会社 理事長
米国連邦航空局 (FAA) 自家用飛行機パイロット
戸村 智憲

はじめに

出張やレジャーで空の旅に親しむ方々が多い中で、日本ではあまり一般的に知られていない空の旅として、プライベートジェット・ビジネスジェットの世界があります。

全日空や日本航空をはじめとする一般的に知られている航空会社ではなく、いつでも好きな時に好きなところへ、自分だけのオリジナルの空の旅を演出してくれるラグジュアリーな世界。

大統領専用機やビジネス界のトップマネジメント層のVIPをはじめ、各国の富裕層の方々などが、自社所有・自己所有している専用のジェット機で、今日も羽田空港・成田空港をはじめとする日本各地の空港にやってきました。

アメリカなどを中心に世界では身近な一般的な航空会社以外の空の世界（GA：ジェネラル・アビエーション）は、日本では規制やさまざまな制約で世界に遅れをとっているのが現状です。

ラグジュアリーな空の世界の第一線で、経営者として、また、運航管理の総責任者として、日本におけるプライベートジェット・ビジネスジェットの世界をリードしてきたお話しを、(株)ユニバーサル・アビエーションの東山浩司氏と戸村智慧から、コンパクトにまとめてご紹介させていただきます。

本書は社会貢献出版（詳しくは日本マネジメント総合研究所合同会社のウェブサイト(<http://www.jmri.co.jp/>)) シリーズとして出版させて頂き、同社の書籍収益（税を除く）および筆者印税受取の全額を寄付させて頂く形態にてお届けさせて頂くものが、少しでも何かお役に立っているなら、筆者として幸甚でございます。

2017年3月 著者ら記す

〈本書のコンテンツ〉

Part 1 ビジネスジェット・プライベートジェットの世界

- 全日空や日本航空など一般の航空会社と何が違うの？
- なぜ世界的に普及が進んでいるの？
- どんなお客様が利用しているの？
- どんな飛行機が活躍しているの？

Part 2 どのような仕事なの？

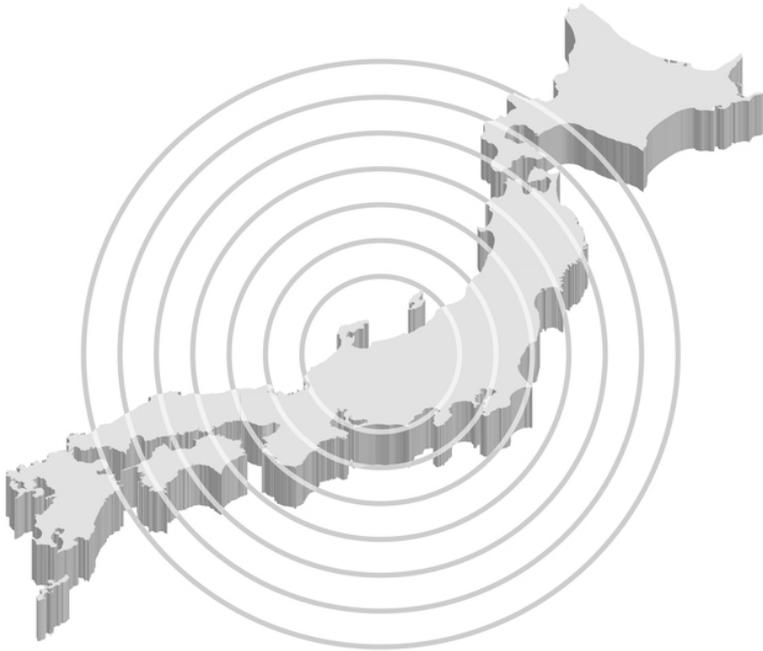
- どんな仕事をしているの？どんなことをするの？
- どんな人がどう働いているの？
- 女性が活躍できる職場なの？
- 働くことで何か学べてどう成長していけるの？
- 先駆者としてどんな苦労や経緯があったの？

Part 3 開拓者としての軌跡と展望

- これまで直面してきた苦労・悩みは？
- どう苦労や悩みを乗り越えてきたの？
- ジェネラル・アビエーションの世界はどう広がっていくの？
- これからの取組み
- 空の仲間や日本の航空界に望むことと読者へのメッセージ

Part 4 空の仲間にインタビュー

- ラグジュアリーな空の世界で働く仲間が語る生の声
航空界のプリンスSさん
運航管理のマイスターMさん
わか社の守護神Yさん
幸運の女神Iさん



Part 1
ビジネスジェット・プライベートジェットの世界



Part 1 ビジネスジェット・プライベートジェットの世界

【全日空や日本航空など一般の航空会社と何が違うの?】

ビジネスジェット、プライベートジェットの世界という、一般の読者の方とか、一般の航空会社の飛行機で飛ばれている方とか、ご旅行されている方などから見ると、「ANA とか JAL とか、そういうのと何が違うの?」というふうに思われる方がいらっしゃると思いますが、さて、一体何が違うのでしょうか?

一般の航空会社による空の旅と一番違うのは、やはり、自分の好きな時に自分で好きに行きたい所に飛べるといふ、フル・オーダーメイドなところが一番違うのではないかと思います。

一般の航空会社の航空機（定期航空機）というのは、出発時間や到着時間や路線が全部あらかじめ決まっています、その時間に合わせて乗る人たちも航空会社のスケジュールに合わせて行動しなければいけないのです。

一方で、プライベートジェットやビジネスジェットは、多忙な世界のVIP や富裕層の方が、自分のスケジュールの都合や好みに合わせて、飛行先や飛行中の機内で食べるお食事や機内の内装でさえも、自分の都合や好みに合わせてカスタマイズできるところが魅力的なのです。

飛行中にくつろぎたい方は、大きな革張りのソファや木目調の内装で装飾した自分のジェット機で飛行したり、ビジネスなどで飛行中に打合せをしたい方は、向かい合わせのエグゼクティブデスクや会議テーブルを、自社の機内に備えて飛行していたりしています。

もう1つの大きな違いは、ビジネス機やプライベートジェット機というのは、もし出発予定の時間に遅れても出発を待ってくれますが、一般の航空会社の定期便だと定時運航（定刻出発・定刻到着）が優先ですから、20分なり30分なり出発時間に遅れてきたお客様が待つてくれませんよね。

普通に一般的に分かりやすく言うと、そういった点が、一般の航空会社による空の旅とプライベートジェット・ビジネスジェットでの空

の旅との一番大きな違いなのかなというふうに思います。

同じ「空を飛ぶ」といっても、一方は時間が来たら定刻で出発して「さようなら」と言われるかもしれませんが、一方では乗る人の都合に合わせて飛んでくれるという、自分だけのためにある空の旅もあるのです。

プライベートジェット・ビジネスジェットは、所有者・利用者のためだけに仕立てられた飛行機ですから、その人その人にあった好みや状況を考えて、いろいろ運航上で気を付けなければいけませんし、抜かりなく快適に期待以上のご満足を得けるよう、その準備をしっかりとしていかなければいけません。

ですから、所有者・利用者のためだけの航空機というのが、やはり一般の航空会社による空の旅との大きな違いだと思います。

もうちょっと一般的に言うと、公共交通で例えば電車と、自家用車の違いにも例えられるかもしれません。

電車であれば、乗車する駅まで行って、何時出発の電車に乗って、どこで何線に乗り換えて、他の乗客の方と満員電車で窮屈な状態で移動するという移動の仕方をしていなければならないところが、自家用車だと、自分の家から好きな時に好きな経路で、ドア・ツー・ドアでそのまま車に乗って好きな所に好きなように行って、途中で好きな所にも寄って行けるという便利さがありますよね。

あとは荷物なんかも、自分で好きなだけ載せられるだけ載せていけるし、新幹線とかだと、例えば荷物を持っていたとしても置く場所がなかったり、駅まで運ぶ手段が不便だったりとか、そういったことを考えると、移動がちょっとおっくうだなというところがあります。

しかし、自家用車なら事情が大きく違います。圧倒的な自由度や快適な移動、自分好みの移動手段というような点から考えると、これがプライベートジェット機・ビジネスジェット機と通常の航空機との違いとしてもっとも顕著に分かるのではないかなあとと思います。

同じ空の旅・空の出張といっても、オーダーメイドの空の旅・空の出張なら、ドア・ツー・ドアで、お迎えに来るのもリムジンだったり、空港でも一般の航空会社の場合だと長蛇の列になる入国審査・出国審

査・税関検査なども、プライベートジェット・ビジネスジェット専用の出入国システム（羽田空港や成田空港にも専用ターミナルがある）なら、空港についてすぐ、また、飛行機を降りてすぐに、列に並ばずスムーズに出入国できたりするのも魅力的です。

【なぜ世界的に普及が進んでいるの？】

では、プライベートジェットやビジネスジェットは、何で世界的に今注目されたり、普及が進んでいたりするのでしょうか？

それはやっぱり、VIPや富裕層の皆さんは、利便性を求められているからだと思います。いろいろな航空会社の運航やサービスをはじめ空港での対応などの現状が、自分のスタイルに合っていないので、空の旅・ビジネスでの移動手段を自分のスタイルに合わせて快適性・利便性や超多忙なビジネスで大きな仕事をこなしていくためには、「自分の飛行機」「自分だけの移動ツール」を使うということが、これまでよりも圧倒的に多くなってきていると思います。

プライベートジェット・ビジネスジェットは、もともとはアメリカで普及・発達したものです。

昔のアメリカの航空会社というのは、それこそ今から30年～40年前ごろというのは、各航空会社が各々でディスティネーション（目的地）にいろいろ運航路線を張っていたのですが、今から30年くらい前から、「ハブ・アンド・スポーク」という考え方・運航路線の整備運用方法をアメリカの航空会社が進め出しはじめました。

「ハブ・アンド・スポーク」というのは、基本拠点となる所（ハブ）とその地方空港（スポーク）を結んで、その拠点となる主要な空港を米国内で幾つか決めて、そこから効率的に各地へ飛行機を飛ばすというスタイルに変化していきました。

ですから、例えばあるアメリカ国内の都市からニューヨークに行くにしても、そのハブとなる空港を経由して行かなければならないということで、出発地にある地方空港から到着地にある空港まで直行で飛ぶよりもかなり時間も乗り換えの手間もかかってしまいます。

航空会社の経営としては、基本拠点から各地に運航する形態の方が効率的でコスト削減などにもつながって良いのでしょうか。通常、時間に余裕のある一般の社員などでは乗り換えなどの時間を浪費しても安く移動できれば構わないとしても、やはり、ある程度の会社のオーナーやエグゼクティブクラスの方々では、企業買収や大きな商談などのためにかけるべき貴重な時間が、空港で乗り換えの時間に浪費されるのは非常にもったいないですし、非効率的で高額報酬に見合わない何の生産性もない時間（乗り換えの待ち時間など）があるのは会社としても株主としても避けるべき「損害」であるとさえ考えられ得ます。

そこで、そんな問題・課題を解決してより効率的で生産性が高く重要な意思決定に時間をかけるための方策として出てきたのが、ビジネスジェットによる移動という柔軟な空の移動手段なのです。

また、2001年のアメリカの航空機による同時テロで大きく注目されたのは、テロが起きた飛行機は全て一般の航空会社による定期便の航空機でした。

ということは、その航空機に乗る人が誰なのか、隣に乗る人が誰なのか、どういう人が乗るのか分からないリスクな移動手段となると、世界の要人やエグゼクティブといったVIPが、いつ航空機でテロに遭うかわからない危険性がかなり大きくなってきます。

しかし、ビジネスジェット機やプライベートジェット機のように、運航計画も搭乗地も安全管理の方策までも自分で仕立てる航空機であれば、搭乗者が知っている人・安全が確認される信頼のおける人しか乗っていないわけですから、高額報酬・資産や、大きな権限・貴重な能力を持った企業にも社会にも大切な人材が、航空機による移動でテロに遭うことはまずありえないということが、安全面からもプライベートジェット・ビジネスジェットの普及を後押ししているのです。

日本では規制がいろいろあってまだまだ空の世界の自由度が低めなためか、日本国籍としてのプライベートジェット機・ビジネスジェット機はあまり増えていません。

日本国内でジェネラル・アビエーションとしてセスナ社のプロペラ機などの小さい飛行機をお持ちになられて、日本国内で飛んでいらっ

しゃるパイロットの方はもちろんある程度はいらっしゃいます。

しかし、国際的な空の世界の比較で見ただけの場合に、海外まで飛んでいける航空機を日本で登録するということが、税法上でもかなりの高額になってくるし、あとは航空法上で航空機自体を常に飛ばしていくための耐空検査とか資格とか、そういうものを取ったり維持したりするのがかなり高額だったり複雑だったりします。

あとはクルー（乗員）の問題もあります。日本でアメリカのように普及したビジネスジェット機のような飛行機がほとんどありませんから、プライベートジェット・ビジネスジェットを運航する上で必要な乗員が十分には育っていないという事情もあります。

日本の現状では、なかなかすぐに大手の会社社長などが頻繁に利用するほど日本で普及しやすいものではないかもしれません。

しかし、ビジネスにおける空の移動手段の効率性・生産性・安全性などを考えて、現時点でも、少なからぬ日本のお客様が取り組んでいらっしゃることで、海外にビジネスジェット機を駐機して海外国籍の飛行機として運航し、日本から世界に向けて、また、世界から日本に向けて、ビジネスジェット機をご利用されているいらっしゃる日本の会社経営者の方々や企業幹部などの方々が増えてきています。

【どんなお客様が利用しているの？】

「プライベートジェット」とか「ビジネスジェット」というと、一般の方からかなり特殊な方々が使われているのではないかなと思われがちですが、一体、どんなお客様が利用されているかといえは、それこそある程度、読者の皆様に知られている会社のオーナー様のケースもありますし、個人経営をされているいらっしゃる方や資産家・富裕層の方々もいろいろとご利用頂いています。

ただ、どちらかという、会社を経営されているいらっしゃる方が多いです。ニフトリと卵の関係なのかもしれませんがプライベートジェット機・ビジネスジェット機を持つ方が増えてくれば、航空行政も柔軟に対応してくれやすくなるでしょうし、なにより、たくさんの自己

所有・自社所有のジェット機が増えるということは、飛行機が安く手に入る（新規販売も中古機の流通も増える）ようになるかと思われます。

プライベートジェット・ビジネスジェットがより普及していけば、高嶺の花ではなく仕事や人生になくってはならない身近な移動手段として、いろんな人がより多様な空の旅という、言ってみれば、空の世界のダイバーシティ（多様化）が進んで、プライベートジェット機・ビジネスジェット機を所有したり利用したりできるようになってくるのではないのかなと思います。

もちろん、プライベートジェット機・ビジネスジェット機のご利用者様の中には、海外からの国賓のような方々もよくご利用頂いております。

我々がよく目にするシーンとして、アメリカの大統領が大統領の任期を終えて自分で回顧録を出し、その回顧録の書籍などを売り込むために世界各国を回るようなシーンです。

そうやったときには、だいたいビジネスジェット機を使って世界各地へと移動していらっしゃっているようです。

大統領経験者ご本人様自体は、お金をジャンジャン使って贅沢しているわけでもプライベートジェット機を保有しているわけではないのですが、支援者の方・販売支援に当たられる方々などの周りの方などが用意されたプライベートジェット機・ビジネスジェット機に同乗してご利用になられるケースが結構あるようです。

あとはメジャーな産油国の方々などは、皆様がビジネスジェット機をご利用頂いています。

その他にも、各国の王族とか首相級の方々は、皆様がご利用頂いています。

日本では、例えば、ビジネスジェット機とはちょっと違いますが、政府専用機として、現在はボーイング747が2機ありまして、天皇家や首相がご利用になられています。

日本ではそういう方々しかご利用になっていらっしゃらないのですが、海外では大臣クラスの方々も、もう少し小さい機体ではあります

が、そういったビジネスジェット機で移動していらっしゃる国も多くあります。

日本もそういった形で、重責を担う大臣クラスの方々くらいまで、もっと安全・迅速に時間を無駄にせず国務に励んで頂きやすいように移動手段としてのビジネスジェット機のような飛行機を持ってもいいのではないかと思います。

ハリウッドの映画俳優や著名なミュージシャンの方々などが、プライベートジェット機・ビジネスジェット機を自分で操縦されて、余暇を楽しみに出かけた世界ツアーに回られたりされる方などもいらっしゃいます。そういった柔軟な空の旅やラグジュアリーな飛行機が好きなお方というのは、著名人の方々の中にやはり結構いらっしゃいます。

普通に飛行機が好きなお方というのは、自らパイロットとして飛行機をお持ちになるケースや、たまに乗るときにチャーターするとかいうケースもあります。

実際に、中には自分で操縦して、プロのパイロット並の操縦技術まで突き詰められる方もいらっしゃいます。

【どんな飛行機が活躍しているの？】

ちなみに空の世界にあまり詳しくないかもしれない一般の方々からすると、空の世界というと大きなジェット機で、一昔前ならよく飛んでいたボーイング社747（ちょっと退役し始めましたけども）や、737とか、空港でよく乗る機体をイメージされると思うのですが、どんな飛行機が実際にプライベートジェット・ビジネスジェットの世界で活躍しているのでしょうか。

プライベートジェット・ビジネスジェットの世界での飛行機というのは、もっともメジャーな航空機メーカーが3社あります。

1つめはガルフストリームというメーカー、2つめはボンバルディアというメーカー、あと3つめはダッソーファルコンというメーカーで、これら3社がメジャーで三つどもえの状態です。

それ以外にも、ブラジルのエンブラエルというメーカーも、このと

ころ徐々に頭角を現してきています。

ガルフストリームというのは、プライベートジェット機・ビジネスジェット機にほとんど特化している航空機メーカーです。

ボンバルディアというのは、例えばCRJという飛行機も作っていらっしゃるって、かなりこの世界の民間の方になじみがあるのではないかと思います。

ダッソーファルコンは、戦闘機とか軍需関連の航空機をメインにされていらっしゃるって、その事業の中の一部として、こういったビジネスジェット機も製造していらっしゃいます。

エンブラエルも、CRJと同じような「リージョナルジェット」みたいなものをベースにしてビジネスジェット機の事業を立ち上げたりしています。

この世界ではなじみ深い所もありますが、日本の一般的な生活・社会ではなじみの少ないガルフストリームが、この世界の中でビジネスジェット機の中では一番大きいシェアを持っていらっしゃいます。

日本で「空の世界」というと、単発プロペラ機のセスナ社のような、遊覧飛行などでもおなじみの4人乗りくらいの小型機を思い浮かべそうです。しかし、セスナ社はなにも小型のプロペラ機だけでなく、「サイテーション」というビジネス・プライベート系のジェット機も製造しているメーカーでもあります。

セスナ社だと、日本の多くの方々には、本当に小さい地域を飛ぶ小型機の航空機メーカーとして認識されがちです。その分、逆に言えば、日本で機体数はかなり多く普及しているともいえそうです。

航続距離や快適性などを考えると、日本ではあまりなじみのないような大きめの航空機が、この世界でだんだん主流になってきています。

やはり、世界から日本がファー・イーストと言われるように、かなり極東にあるものですから、欧米のどこから来ても、結局、遠く時間がかかる立地にある国という国際社会の認識なのです。

そうなってくると、大型で航続距離も長い航空機がこの世界で広く受け入れられるような土壌・制度などが必要になってくると思います。

実際、海外からはそういった航空機で各地に飛ばれる方がやはり多

いのが実情です。

Part 2 どのような仕事なの？



Part 2 どのような仕事なの？

【どんな仕事をしているの？どんなことをするのか？】

そういったプライベートジェット、ビジネスジェットの世界においては、具体的にユニバーサル・アビエーションという会社ではどんな仕事があって、スタッフの方とか東山さんがどんなことをされているのでしょうか。

一般にはなじみがなさそうな不思議な雲の上の世界といった感じかもしれませんが、一般的な空の旅だと、空港に到着すると並んで飛行機から降りていって、航空会社の地上スタッフの方がお客様を出迎えるという一連の作業を想像されやすいかと思います。

あとは機内のスクリーンで飛行機を誘導している姿(マーシャラー)を見たり、到着・出発に関して飛行機の周りで燃料補給や荷物の積み込んでいる様子を見たりといった、いろいろな作業をしている様子をご覧になったことのある方は多いと思います。

定期航空会社では、飛行機を時刻表に沿って何機も飛ばしていますので、自社のスタッフ、あるいは、自社で契約した会社と提携をして、飛行機を運航するためのさまざまな作業を行っています。

一方で、プライベート機やビジネス機を運航する場合は、例えば、海外から来る航空機が日本に到着した場合に、その一機の飛行機にだけその航空機の運航者を日本に常駐させるということは非効率ですし無駄の多いお話です。

誰かがその航空機が到着した際に、お出迎えや荷物の積み下ろしや燃料補給などといった、安全で快適に空の旅を楽しんでもらえるように、運航業務の経験豊富で安全性・専門性・接遇力ある対応をはじめ、英語だけでなく外国語での対応などもできる、みんな安心できるプロのいろいろなサポートが必要になります。

そのサポートを世界的なネットワークのもとで、トップ・エグゼクティブやサービスを見る目の肥えた富裕層の方々から高い評価を頂いて実施しているのが、日本の筆頭格としてご依頼の絶えないユニバー

サル・アビエーションなのです。

航空機が到着する前から様々なご要望・ご期待をお寄せ頂いているお客様との対応から、航空機が「どこの空港に飛行したい」と決まった場合には、全国各地の空港・行政・宿泊や交通手配を含めて、空の世界のあらゆる対応をご提供するコンシェルジュとして、ユニバーサル・アビエーションは高品質なサービスをご提供しています。

日本から海外に、また、海外から日本に航空機でお越しになるお客様との各種調整を行った上で、国際的なお仕事となりますので、例えば、税関や入管や検疫の方に「こういった飛行機がこんな状況で来ますから、対応をよろしくお願いします」という通知や連絡・報告手続きなどをしていきます。

実際に飛行機が海外からご到着されるにあたっての作業の準備手配や、いろいろなお客様が快適に出発・到着頂けるよう手配を行った上で、実際に航空機が降り立った際には、ユニバーサル・アビエーションのスタッフがお客様をお出迎えさせていただきます。

スムーズに皆さんが出入国できるようにアシストさせていただいた上で、航空機の運航を支える作業全般をとり行っていきます。

ひとことで作業全般といっても、日本にお越しになる航空機は長く空を飛んできていますので、それこそ、飲料水の補給やゴミ・トイレタンクの処理といったことも、適宜、処理業者を手配して対処していきます。

日本から海外へのご出発に関しては、燃料などの手配だけではなく、空の旅にはつきものの機内食の手配も大切な業務です。

中には、お客様のお好みで高級食材をリクエスト頂くケースや、日本の味をお届けするために和食・和菓子などを手配するなどといったおもてなしも、大切な業務のひとつとして必要とされることです。

航空機でご出発されるにあたっては、航空管制の方々に「こういった航空機が、今からここまで飛びます」というような通知を行うことも必要とされます。

実際に、乗員や乗客の皆様がスムーズに出入国されて、航空機に乗り込まれてテイクオフあるいはご到着・ご滞在・ご帰国なさるまで、

極上の空の世界全てを支えるサービスをご提供している会社が、ユニバーサル・アビエーションなのです。

【どんな人がどう働いているの?】

航空機自体はお客様のお持ちのものだったり、お客様の会社が保有されていたりしますが、運航関連など各種の手配や対応はJALやANAと同じようなぐらいと言ってよいほど、ユニバーサル・アビエーションは航空会社と同じような機能を果たします。

プライベート機・ビジネス機の世界でユニバーサル・アビエーションはひとつの航空会社を運営していると言っても過言ではありません。

お客様の方で契約されている航空機を操縦するパイロットは、それぞれにご用意されることが多いです。

その他の運航を支える様々な人材に関しては、ユニバーサル・アビエーションで何か特別すごそうな人が働いているのかもしれないなというイメージを抱かれるかもしれません。

どんな方が実際にどう働いているのかといえば、何か特別にすごそうな人が極めて特殊な技能をもって働いているというわけではありません。

もちろん、安全性・快適性の観点から、航空関係の手続きや運航上の技能が高く求められる業務も少なからずあります。

ただ、何か特殊な人材というよりも、ごく普通に安全・健全・おてなしを大切にしてくれるどこにでもいる方が、ユニバーサル・アビエーションに集まってきているのが現状です。

大手航空会社から転職してこられる人材もいれば、新卒採用でしっかり教育していく人材もいます。

一般的な日本企業での職場と1つだけ大きく違うのは、英語や中国語などの外国語でのコミュニケーションをとらなければ国際的な業務をこなせないということでしょう。

空の世界の業務ではメインの言語は英語ですが、ユニバーサル・アビエーションのスタッフはみな英語がビジネス実務レベルで堪能な人

材ばかりです。

特に最近では中国圏のお客様や、他言語圏の諸国のお客様が増えていますので、様々なお客様のニーズに快く万全にお応えできるよう、スタッフの多様性がだんだん高まっています。

経理・総務などのアドミニストレーション関連スタッフは、当然ながら他の一般的な日本企業での職務経験が生かせる面が多々あります。もちろん、世の中にはいろんな業界・業態がありますが、やはり、実務で初心を大切にしながらしっかり慣れていくことと、様々なニーズ・ケースに対応していった経験を積むこと、そして、国際的な業務で必要な度胸さえあれば、特に難しい職場ではありません。

そういったことは、ユニバーサル・アピエーションだけのお話ではなく、業種業界を問わず国際化・多国籍化する中で、いろんな会社にも求められていることと同じようなことでしょう。

壮大な空の世界の魅力と国際的に活躍されている方々に関われることが、日々の喜びでもあり仕事への活力源でもあるように思います。

【女性が活躍できる職場なの？】

ちなみに、日本社会においては、女性活躍推進法やテレワークなどをはじめとする、ダイバーシティ経営について取り組んでいこうといった機運がある中で、ユニバーサル・アピエーションはそういった対応にも積極的に取り組んでいます。

女性のスタッフが多く、産休・育休から復帰して生活と仕事の調和（ワーク・ライフ・バランス、又は、ワーク・ライフ・ハーモニー）をとって働きやすい職場です。

画一的な働き方・生き方を押し付ける経営ではなく、スタッフのみなさんのニーズに合わせて柔軟に検討・改善・対応していきます。

職場の各部門スタッフ・管理職が集まり、ユニバーサル・アピエーションがもっとお互いに幸せになり合える会社・職場にしていけば良いかを、様々な課題・思い・願いを持ち寄って定期的にディスカッションし企画・立案・推進していく「ハッピー・プロジェクト」を、部

門・職務・役職などの枠を超えて展開しています。

ちなみに、ユニバーサル・アビエーションの人材採用の募集に応募頂いている方々は、いろんな経歴の方々がいいます。

ホテル業界出身者や、全く畑違いのことをやってきた方や、教育関係の仕事をしてきた方、あとは、前職が運転手だったりアメリカから帰国したばかりの方だったり、新卒・既卒・中途など様々な方に応募頂いています。

一概にこういった経歴の人でなければならないということはありません。ユニバーサル・アビエーションは門戸を広くして募集しています。

最近では、海外の外国人の方からの応募がかなり多くなってきています。

ただ、国際的な業務を日本拠点で行う以上は、外国語だけではなく日本語がどうしても必要になってくるので、海外からの素晴らしい経歴の応募者でも、日本語での対応力・実務力の面でネックになってしまうことがあり残念な思いをすることもあります。

ユニバーサル・アビエーションにいる外国人スタッフは、日本語も非常に流暢で、いろんな国からのスタッフが働いています。

【働くことで何が学べてどう成長していけるの?】

ユニバーサル・アビエーションという会社で働くことを通じて、どう自分の成長につながるようなこんなことが学べたり、意欲を持ってどう活躍したりしていけるのでしょうか?

仕事はやりがい・充実感・自己実現など多様ですので、必ずしもお金の面だけでどうこうというのは、どんな会社・仕事でもあまり働く方々の成長の面でも良いとは限りません。

もちろん、仕事を通じて自分を伸ばそうと自ら頑張ればそれだけ成長していけるでしょうし、指導・教育面で支援も惜しみません。金銭的なものもその分だけ得ることができると思います。

ユニバーサル・アビエーションでは、それよりも、普段はめったに

会えない方々と気軽に会うことができ、そのふれあいやその方々の持つ空気感などから移り香のように、ハイレベルな感覚が自然と育ってくるということがあろうかと思えます。

例えば、ユニバーサル・アビエーションのお客様がある日本企業のトップの方であっても、普通に会社勤めしている中では、最上位層のトップの方々にはほんの一部の方しか会えないのではないのでしょうか。

そういった方々にサービスをご提供していろいろとお話を交わしていく中で、顔を覚えていただいくことは、他の会社にはない特別な瞬間なのかもしれません。

自分がいかにその方々に対して真摯に向き合って対応するかによって、そのお客様から直接に「ありがとう」という言葉を聞けるのは、仕事のやりがいを感じるプライスレスな体験だと思えます。

もちろん、そういったことはホテルやレストランなど普通にお店などで働いていらっしゃる方も同じかもしれませんが、それ以上に、空の世界でプライベートジェット・ビジネスジェットという他にない世界で、このお客様のために自分で作り上げたサービスを考えて動きご提供差し上げて喜んでいただくことで、その世界の政治経済を担われているお客様が心地よく喜んでいただいています。

世界においてより大きな力を持って世界も日本全体も引き上げるような施策・経済活動を行っていただけるお手伝いができるようなことが、ユニバーサル・アビエーションでの仕事の醍醐味ではないかと思えます。

そういった面でのユニバーサル・アビエーションの貢献としては、本当に微々たるものかもしれませんが、さりげなくではあるものの、日常にある特別な瞬間の連続に携われるということが、仕事での成長の面でも人生での成長の面でも、とても良いものなのではないかと思えます。

ユニバーサル・アビエーションのお客様は、世界の政治経済におけるトップクラスの方々だったり、あるいは富裕層の方々や、投資活動をしてくれるの方々だったりします。

そういった方々が日本に降り立って誰よりも最初にお会いできたり、

日本を後にされる最後の瞬間にお見送りをさせていただくのが、ユニバーサル・アビエーションという会社・役職員の笑顔なのです。

ユニバーサル・アビエーションのおもてなしを通じてその方々が日本の良い印象を持っていただきたくようなことが、ひいては、世界経済・政治の世界でいい方向に作用するようなことがあると素晴らしいですね。

最初に会った人や最後に見送ってくれた人の印象が強かったり日本のイメージを左右したりする面はやはり大きいですので、ユニバーサル・アビエーションは、その重要な機会にお客様にどれだけスムーズで心地よく喜んでいただけるかを、常に考えてより良いサービスをご提供していかないとはいけません。

あくまでもお客様に喜んで頂いた結果として、会社の売上があがるものであると思います。

日本を代表するプライベートジェット・ビジネスジェットの世界のリーディングカンパニーとして、ユニバーサル・アビエーションが存在できたらいいなというみんなの思いがあります。

Part 3 開拓者としての軌跡と展望



Part 3 開拓者としての軌跡と展望

【先駆者としてどんな苦労や経緯があったの?】

そんなプライベートジェットやビジネスジェットが、今ほどまだ普及していない段階から、先駆者として、また、日本の航空界の開拓者として、ユニバーサル・アビエーションを率いてきた中で、これまで直面してきた悩みや苦労したことなどは、いったい、どんなことがあったのでしょうか?

もちろん、先駆者や開拓者という立場になられてきた方々は、ユニバーサル・アビエーションでサービスをご提供する前から他にもこの世界を切り拓いてこられた先達がいらっしゃいますので、そういった方々に敬意を持ちながら新たな空の世界を切り拓くバトンを受け取って進んでいるようなものかもしれません。

ただ、この業界では長く活動していますので、やはり様々なことはありました。

苦労したこととしては、実は、なかなか思い出せないですよ。日々、どうしたらより良くお客様にサービスをご提供できるかを考えていると、苦労というよりその壁を乗り越える活力を得ているというような感覚でしょうか。

その中で、やはり、一番つらかったのは、なかなかプライベートジェットやビジネスジェットの世界の意義や政治経済への貢献などという様々な面を認めてくれる人がいない時代があったということが、とてもつらく心を痛めていた経験だと思います。

例えば、ファーストクラスを含めて一機の飛行機にたくさんご搭乗なさっていらっしゃる方々の総収入は、大型機ボーイング747にお乗りになっていらっしゃる数百名様の方の総収入より、わずか数名～十数名が定員のプライベートジェット機やビジネスジェット1機にご搭乗の方の総額のほうが上回ることが多々あります。

そういう最上位層の方々がお越しになったり日本から世界各地に飛び立たれて、日本の要人や政治経済界の要人とお会いになった

り海外の要人と交渉・対話なすることが、どれだけ日本に対しても世界に対してもプラスになるのかと考えれば、プライベートジェット・ビジネスジェットが日本に飛来し日本から飛び立たれることは、極めて意義深いものがあります。

ただ、定期航空便の会社や空港や行政などから見れば、結局はジャンボジェット機に比べてはるかに小さい飛行機が飛来してくることについて、必ずしも歓迎ムード一色とは限りません。

外見的に見れば、プライベートジェット機やビジネスジェット機といった「小さな」飛行機を受け入れたところで、空港や空の世界として何の足しにもならないのではないかと見られることは、お客様のことを知れば知るほどくやしく思いますしお客様にも申し訳なく思います。

中には、プライベートジェットやビジネスジェットを排除したいというような言い方をされていた方も、これまでに実際にいらっしまいました。

また、プライベートジェットやビジネスジェットの世界やこういった形態のユニバーサル・アピエーションのような会社に対して、「インチキ航空会社みたいなものだ」というように平気で心無いことを言われたこともありました。

世間の一般的な理解をなかなか得られていなかった際は、何をやっても協力者が得られないというのが、やはり一番つらく悲しい思いをした経験ではあります。

今ですらそんなに一般的というほど認識されているわけではありませんが、今は少しずつ国や政府をあげて、このプライベートジェットやビジネスジェットへの積極的な対応を、いかに強化していこうかというお考えをお持ちいただける方々が多くなってきてくれたことが、この世界に携わる者として希望の光としてありがたく心強く感じられます。

実際に、日本の首相の口からもそういったご発言・ご提言が出たりする状況になったのは、とてもうれしく思います。

今でこそインバウンド対策強化や日本から海外への自由な空の世界

への扉が開く一貫として、羽田や成田にプライベートジェットやビジネスジェット専用の施設ができたり、発着枠が増えたりして、官民ともに理解が深まり始めて、利便性も高まってきました。

ユニバーサル・アビエーションもかなり多くの航空機の運航管理を担当しておりますし、いろいろなお客様が信頼をお寄せ頂いて下さっていますので、皆様の利便性につながるような形で、うまくこの追い風に乗っていければと思います。

ただ、現状が決して最終形ではなく、あくまでも、プライベートジェットやビジネスジェットの世界の発展においては、諸外国の状況と比べて、日本はまだ初歩的な段階ではないかと思われまます。逆に言えば、それだけ発展の余地は大きく広がっています。

日本が取組みはじめた対策として、羽田空港と成田空港における専用導線・出入国できる場所が作られたことは素晴らしいことです。

ただ、諸外国の状況から考えれば、そういった日本の現時点の状況は、プライベートジェットやビジネスジェットの世界では初歩的段階に過ぎないと言えます。

例えば、香港の空港では、当然ながらプライベートジェットやビジネスジェットの専用ターミナルがあって、そこで入国審査や税関検査など全ての対応がごく普通に行われてきました。

中国でも、上海とか北京の空港でも、プライベートジェットやビジネスジェットを受け入れることによって、国の経済をいかに発展させられるかということを、空港の運営母体だけではなく政府も含めて国家的に推し進められています。

その他の各国でも各様に積極的な施策が整備・実践されていることなどから考えれば、日本の現時点での対応は羽田空港と成田空港の2つの空港にとどまり、他の地方空港に行くと、プライベートジェットやビジネスジェットに対して、「定期航空便ではないそんな航空機なんか、どうでもいいよ」といったような認識や雰囲気がありそうな感じですよ。

やはり、日本も、もっと全国的にプライベートジェットやビジネスジェットの利用機会の拡大や利便性の向上を進めていかなければいけ

ないのではないかと思います。

【どう苦労や悩みを乗り越えてきたの?】

官民ともになかなか普及・理解が進まなかったこれまでに、いろいろな乱気流のように困難に直面したこともありました。

今、振り返ってみれば、いろいろな方々にご支援・ご声援・お力添えを頂きながら、さまざまな困難を乗り越えることができてきた際の、心の支えやよりどころみたいなものは、一体どのようなものだったのかと考えたりします。

やはり、「基本は何なのか」、「正しい道は何なのか」ということを、何かあったときに考えることに尽きるように思います。

各企業に社是・経営理念・社訓といったミッション・ステートメントという企業としての心のよりどころ・思考や行動の原点を示したものがありますが、どの企業にも経営者として大切にすべき基本の徹底や正直な対応という点は、一様に大切な心の羅針盤となるものだと思います。

何か困難に直面したり支障が生じた際、また、何か悩み事や壁にぶつかったりした際に、常に、「何が基本なのだろう」、「何が正しい道なのだろう」ということを、一旦、少し落ち着いて考えてみるようにしています。

ちょっと落ち着いて考えてみて、「これは、やってはいけないのだ」「これは、やっていいのだ」「これは、積極的に取り組むべきものだ」ということを判断した上で、いろいろな方策を工夫して対応してきました。

パイロットでも乱気流や何らかのトラブルの際に、バタバタとあわてふためいてしまつては、大切な乗客乗員の命を守れないように、経営者としても、ユニバーサル・アビエーションを慕って下さるお客様や役職員を守る上で、基本・原点に戻って考え抜くということが、一番大切なポイントではないかと思っています。

一番大事な基本軸が確固としてあり、そこからブレずに一步一步コ

ツcottと進み、そこに空の世界の多様化として言ってみれば「航空界のダイバーシティ&インクルージョン」が空の世界やそこに関わる企業経営の多様化をもたらし、ユニバーサル・アビエーション自体も役員も、また、大局的に見れば日本の経済なども成長していけるという展開が広がっているのかもしれないと思います。

【ジェネラル・アビエーションの世界はどう広がっていくの?】

プライベートジェットやビジネスジェットを中心に、セスナ社のプロペラ機による遊覧飛行や個人所有の小型機など、ジェネラル・アビエーションの世界はあまり日本人の中で意識されなくとも既に多種多様に存在します。

これからの日本や世界では、その世界はどう広がっていくのでしょうか。

何とも言えないところはありますが、政治経済や社会動向などにより、急に大きく進展することはこれまでの国際的な観点からあり得るでしょう。

一気に進展する面もあれば、逆に、ジェネラル・アビエーションの運航自体が危ぶまれるようなシーンもあり得ます。

例えば、世界経済の点ではヨーロッパの低迷や各種問題、例えば、ギリシャ問題やスペイン問題やウクライナ情勢などを受け、経済的に持ち直してきたら別の問題で発展の気運がトーンダウンすることもあります。

それは、航空界にも身近なテロの問題においても、世界情勢が不安定になっている中で、安全管理を優先するため運航差し控えが起こってきたりするケースや、経済自体が低迷しているとなってくる場合には、ビジネスジェット機の発展の気運がそがれたりするケースもあり得ます。

アジア圏では、発展気運が非常に旺盛で、これまでは中国がけん引役としてよく注目されていましたが、中国だけではなくインドネシア・マレーシア・タイ・ミャンマーなど、各国で一層の発展やその兆

しが見受けられます。

欧米のみならず、世界各国に発展の余地が広がっていて、そういった世界各国から日本に飛来するケースも、また、日本から世界各国に飛び立っていかれるケースもあり、今後の展開が楽しみです。

発展の余地が非常に大きいのは、アジア圏やその近辺と、航空産業で成り立つ側面もあるアメリカに加え、中南米もビジネスジェット機の需要がかなり多い所ですので、それら各地でジェネラル・アビエーションの世界が一層伸びていくだろうと考えられています。

アフリカがこれからどうなっていくのかについては、興味深くて今後の発展の余地は十分あると思います。

総体的に言えば、この世界は今後もさらに伸びていく業界だと思えます。

特に日本に関しましては、現状が他の諸外国から比べるとかなり遅れていることの裏返しとして、ジェネラル・アビエーションにおける一層の発展が経済大国として世界からも注目されています。

ジェネラル・アビエーションの世界の発展において、日本としてはもっと積極的に利便性の向上や発着回数の増加など、さまざまな航空界の対応を推進して、世界をリードしていくような存在になるべきだと思います。

日本におけるプライベートジェット・ビジネスジェットのリーディングカンパニーとして、やはりユニバーサル・アビエーションという企業も役職員も、より一層、成長・創意工夫を重ねていかなければならないと思っています。

そのためにも、まずユニバーサル・アビエーション自体がしっかりとした視点に立って、日々の業務を行っていかねばいけぬものと思っています。

【これからの取組み】

その中でユニバーサル・アビエーションはこれからどんな取組みを進めて行くべきか、いろいろと検討し試行錯誤しています。

また、ユニバーサル・アビエーションにできることがあれば、積極的にどんなことでも取り組んでいきたいと思っています。

もちろん、競合企業もありますし協力会社もありますし、競争の中で切磋琢磨し合いながら、自社として打ち勝っていかなければいけないということと同時に、相互に協力し合って航空界の発展に尽くしていくべきものでもあります。

その中で、ユニバーサル・アビエーションがこの業界のリーディングカンパニーとして、より一層、成長していく必要がありますし、航空界のオピニオン・リーダーとしての存在意義も確立していかなければならないと思います。

また、これまでのサービスのさらなる向上を進めつつ、例えば、インフラ面で可能であれば自社で専用ターミナルを持ったり、海外によくあるFBO（Fixed Base Operator：ジェネラル・アビエーションの運航支援事業者）として、運航に必要な各種施設を自社で持ったりしたいと思っています。

現在、いろいろな委託業者の方に運航管理・運行支援の作業を分担して依頼させていただいていますが、サービスや設備の品質管理やお客様に対するサービスレベルの一層の向上を図る上でも、自社で全て行えるような形をとれないかということをはじめ、その他にもさまざまな工夫・対策を検討しています。

そういったものは海外では普通に存在しているものであっても、日本で同様に整備・確立・提供していくことが、1つの大きな目標です。

また、そういったことを通じて、ユニバーサル・アビエーションがより良いサービスや設備のご提供し、お客様にもっとお喜びいただけるようにすることで、日本にお越しいただける機会や日本から世界に快適、かつ、スムーズに飛び立っていただける状況を整えていければと思っています。

そうすることで、最終的にはユニバーサル・アビエーションの取り組みが、日本社会に寄与できるようになるのではないかと思います。

ユニバーサル・アビエーション自体のネットワークが世界各国に展開していますので、そのネットワークの1つとしてお客様にもネット

ワーク先にも良い機能を果たすことで、自社が全世界から良い印象を得られるようにプレゼンスや存在意義の向上を図れるのではないかと考えています。

ちなみに、ユニバーサル・アビエーションのネットワークの中で、日本から一番遠い所でどこにネットワーク先があるかといえば、日本の真裏にあたるブラジルやアルゼンチンにまで広がっています。

アメリカでの本部はヒューストンにあり、ヨーロッパ・オーストラリア・中南米などや、最近ではエチオピアにも事務所が開設されました。

世界のいろんな所にユニバーサル・アビエーションという同じ名前です。

【空の仲間や日本の航空界に望むことと読者へのメッセージ】

様々な活躍のシーンや、世界各国と接点のあるユニバーサル・アビエーションにご興味を持っていただいた方や、日本の航空業界の発展に期待されている方々で、これから人材採用への応募を検討される方や入社いただける方へのメッセージをお届けさせていただくとすれば、以下のようなことをお伝えしたいと思います。

気負いせず、積極的に自分の意見や考えや希望・期待をもって、自分らしさを発揮していただきたいということです。

それが、これからの社会や企業に生き働く上で、一番大きな武器だと思います。

ただ流れ作業的に受け身の体制で、言われたことをやるだけでは、習熟期間中はそれでも仕方ないとしても、やはり、自分自身のこと・自分だからできること・自分の良さや得意なことなどをよく理解して、「自分が誰なのか」「自分が何なのか」「自分は何をすることを期待されているのか」「自分は何ができるのか」といった、自己をしっかり確立しておけるかどうか、これからの社会でどんな仕事であっても、より一層、大切なことだと思います。

ユニバーサル・アビエーションでの仕事を通じて出会う新たな自分

自身と、自分自身でもまだ見ぬ自分自身の新たな可能性に向けた何かを開拓していく姿勢、積極的に物事に取り組む力を付けてもらえれば、ユニバーサル・アビエーションだけでなく、いろんな場面で自らの良さを生かして成長し、充実した日々を過ごしていけるのではないのかなと思います。

グローバルに活躍できる人材に求められる基本的な素養かもしれませんが、基本的なことや積極的な姿勢などをひとつひとつ大切にしていだける方々と共に、航空業界の発展を担っていただければと思いますし、お仕事で一緒する機会がない方々からも、ユニバーサル・アビエーションに一層のご期待をお寄せいただけるなら大変うれしいです。

Part 4
空の中間にインタビュー



Part 4 空の間にインタビュー

【ラグジュアリーな空の世界で働く仲間が語る生の声】

Q： まずは、大手航空会社に勤務されていて転職してこられた経緯をお持ちで、航空界のプリンスとお見受けしたSさんにお聞きしたいと思います。どんな仕事をしているのですか？

Sさん： 定期便では来ないような不定期便に乗ってくるVIPの方を、日本の玄関となる空港でお迎えし、そして、またお見送りをしております。

Q：この会社ならではのポイントというのは何ですか？

Sさん： 普段はお会いするようなことができないVIPの方にお会いをして、そういった方たちに、いろいろな空港でのサービス提供ということをやっております。私たちの1番のポイントとなる所は、まさに日本の玄関である空港で、海外から日本におこしになられた方々に一番最初にお会いして、その後、帰路につかれる際には一番最後にお見送りをするという、とても大事な場所で仕事をしています。

Q：これをお読みいただいた方、あるいは、この会社で仕事をしてみたいと思っている未来の仲間一言お願い致します。

Sさん： 私たちは、いつも人を大切にして仕事をしましょうということを考えて仕事をしています。そんな空の仕事ではありますが、日本の玄関となる空港で一緒に働ける方、やる気のある方、ポジティブな方をお待ちしております。

Q：ありがとうございます。次はパイロットのライセンスもお持ちで経営の視点・現場感覚も併せもってお仕事をしていらっしゃる運航管

理・接遇のマイスターとお見受けしたMさんは、どんな仕事をやっていますか？

Mさん： 主に地上ハンドリングという業務ですが、飛行機の大小に
応じてさまざまにやり方も変わりますけれども、VIPのお客様の足を
いかに止めずにスムーズにハンドリングができるか、飛行機からい
かに快適に素早くご移動いただけるようにするか、そして、飛行機に
安全で心地よくお乗りいただけるようにできるかが、メインの仕事で
あると思います。

Q：どんな飛行機を実際にハンドリングするのですか？

Mさん： 小さい方でいくと、本当に10人乗れるか乗れないかとい
うくらいの中・小型機がありますが、中には、ボーイング社のいわゆる
ジャンボサイズまで、大小さまざまなありとあらゆる飛行機をハン
ドリングします。

Q：この会社だからこそということで、何かポイントというのはあり
ますか？

Mさん： ユニバーサル・アピエーションというブランドは、世界で
他に25カ国以上に展開している、とてもグローバルな会社です。「日
本でこれをやる、あれをやる」ではなくて、他の国々でも同じことで、
同じようなサービスを、同じスタンダードで仕事をしている人たちが
いるという、本当に世界にファミリーがいる、そういったちょっと特
別な会社ではあるかなと思います。

Q：差し障りのない範囲で、実際にはどんな人が来るのですか？

Mさん： 世界をリードする大手企業の会長といった、いわゆるトッ
プビジネスパーソンの方々です。そういう方々もいらっしゃいますし、

大統領といった政府要人の方々や、日本が招聘する各国のトップの方々などの飛行機をハンドリングします。

Q：では、未来の仲間かもしれない、この仕事をやってみたいという方々に一言お願い致します。

Mさん： ビジネスジェット機・プライベートジェット機というのは、あくまでも会社や個人の所有物であって他人の需要や状況に影響を受けない、言ってしまうとその人のしたいように物事が進むということでは、毎回違うことが起こり得ます。そのさまざまなニーズに、その都度どのように応えるかというところで、大変な部分はありますけれども、ご要望に沿った対応が達成できて「ありがとう」とお客様に言われると、すごくうれしいですし、有意義でやりがいも感じるので、そういったやりがいを求めるような方とは、ぜひ一緒に働いてみたいと思います。

Q：はい、ありがとうございます。では、ファイナンス部門をご担当で、ユニバーサル・アビエーションの守護神とお見受けしたYさんは、どんな仕事をしているのですか？

Yさん： ファイナンス部門では、会社の財務状況を的確に把握して、それをマネジメント部門やアメリカの本部の方に報告するような業務をメインの業務としております。

Q：ちなみに、この会社だからこそその難しさというのがありますか？

Yさん： 難しさですか。財務的な難しさというのは、ほとんどないと思います。ただ、この会社は非常にニッチなマーケットでビジネスを展開しておりますので、優れた人材の確保だったり、それからマーケットの開拓だったりという所では日々さまざまな取組みをして課題解決をめざしているという難しさはあります。

Q： 需要を見込むのがなかなか難しいと思うのですが、その中で大注目のこの会社で、未来と一緒に働くようになってくれるような仲間の一言をお願いします。

Yさん： このマーケットは将来的に確実に伸びると期待されているマーケットで、この会社は、今は比較的コンパクトですが、5年後・10年後には、皆さんと一緒により成長していける会社だと思っておりますので、やる気のある方には、ぜひチャレンジしていただきたいというふうに思っております。

Q：そして、アドミニストレーション部門ご担当で、これから産休・育休に入り復帰される予定の幸運の女神とお見受けしたIさんにお伺いします。幅広い業務を担当されている中で、例えば、いくつか主要な業務を挙げるとしたら、どんな仕事を中心にして仕事をしたいですか？

Iさん： アドミニストレーション部門なので、基本的には何でも万能型での対応が求められますが、メインとしてはうちの会社がビジネスとして成り立つために、運輸部が空港で業務ができるための空港の営業権の更新だったりパスの取得といった空港全般の仕事と、あとは人材確保のための人事機能、また、事務所内で業務を円滑に回すために必要なネットワーク構築だったり、機体を駐機していただくための各種調整業務という感じですかね。

Q：この業界とか会社だからこその難しさというのがあると思いますが、あるとすればどんなことがありますか？

Iさん： 人事と事務所の調整では一般的なスキルが活かせる面が多々あると思うので、難しさの面では空港関係者との連絡だったり、申請面だったり特殊になってくるので手間も掛かりますし、苦労す

る部分ではあります。

Q：では、最後に、この会社で働きたいなと思っている未来の仲間に一言お願いします。

Iさん： 全体としては、やはり自分たちが普段の生活では出会うことのないVIPだったり国賓だったりといった方々と出会えることがあるので、日々新たな対応が求められ、同じことの繰り返しではなく常に業務の新鮮さや充実感・達成感を味わえる業務かなと思うので、日常生活・一般的な企業での通常業務とは違う仕事の醍醐味を味わえるお仕事だなあと思います。



【ユニバーサル・アビエーションの仲間の声】

実際にユニバーサル・アビエーションで働く仲間から、ご興味をお持ちいただいたアプリカントの方々へのメッセージはこちら。
(QRコードをスマホアプリで読み取って頂ければ、YouTubeの動画がご覧いただけます。)

↓和気藹々としたスタッフからのメッセージ↓



↓運行管理のエース！Sさんからのメッセージ↓



↓頼れるマネジャー！Iさんからのメッセージ↓



↓ユニバーサル・アビエーションの「社窓」から羽田の景色↓



＜理事長の戸村が私費を投じて行っている社会貢献出版について＞
(本書も社会貢献出版シリーズの内の1冊です)

弊社で取り組みを行っております出版事業におきましては、社会貢献出版として、弊社が受け取る書籍販売の「利益」ではなく書籍販売の「収益」から税金を引いた全額と、著者さまの印税額すべてを、弊社より国連機関や日本赤十字社の災害義捐金等に寄付させて頂く形態でISBN付き紙媒体での出版事業を行っております。(国会図書館に収蔵されます。)

自費出版業者さまや企画出版や完全に営利目的の商業出版とは異なり、著者ご希望者様から出版にかかる費用の徴収や買い取り義務を課すものではなく、弊社理事長の戸村智慧が私費を投じてISBN管理番号取得費や運営費をまかないながら、日本マネジメント総合研究所合同会社にて社会貢献費用ねん出の公益商業出版の機会ご提供を行っております。

詳細は弊社ウェブサイトの社会貢献出版のページをご高覧下さい。

ビジネスジェット・プライベートジェットの世界

～ジェネラル・エビエーションの開拓者としての軌跡・

展望とラグジュアリーな空の仕事・職場を知る～

2017年3月11日 初版発行(3・11を忘れない!)

著者： 東山 浩司 & 戸村 智慧

発行人： 戸村 智慧

発行所(版元)： 日本マネジメント総合研究所合同会社

〒107-0062 東京都港区南青山2-2-8 DFビル5階

電話： 03-6894-7674 FAX: 03-6800-3090

E-mail： info@jmri.co.jp

Web： <http://www.jmri.co.jp/>



ISBN: 978-4-908850-00-4